

地域の大人と一緒に おもてなしの心学ぼう

公益社団法人マナーキッズプロジェクト(田中日出男理事長)が続けてきた、さまざまなスポーツ・文化活動に親しみながら礼儀を学ぶ活動。東京都杉並区教委では、これを放課後子ども教室などの学校と地域が協働した活動の中に導入する取り組みを始めた。大人と子どもが共に学ぶことで、「おもてなしの心」を広げていく。

礼法の師範が指導
「よのしくお願いします」。夕方の体育館に、子どもたちが元気にあいさつをする声が響く。
この日、杉並区立杉並第一小学校(鈴木知徳校長、児童424人)

東京・杉並区教委



最初にあいさつの仕方を学ぶ子どもたち

で実施された放課後子ども教室は「マナーキッズラグビー教室」では、70人以上の子どもたちが、タグラグビーをプレーしながら礼儀作法を伝える小笠原流礼法の師範が「あいさつを学んだ。」

「放課後子ども教室」などで「マナーキッズ」

タグを取られた人は仲間からあいさつを改善して、ボールをパスしないなど、短時間で成り上がる。ゴールエリアに長していく姿が見られ、向かってトライ。最後は、教えてもらった礼法で「ありがとう、ごさいました」とあいさつをした。

公益社団法人マナーキッズプロジェクトは、(公財)日本テニス協会マナーキッズプロジェクトが設立され、全国各地で教室を開催している。杉並区では、公益社団法人マナーキッズプロジェクト(前身団体)が設立された。友達しみながら日本の伝統的な礼法を学べる活動が所在している縁がある。

スポーツ・文化楽しみながら

の仕方」を指導。その後、早稲田大学ラグビー蹴球部の後藤慎和監督とコーチ、選手(学生)が、タグラグビーを教えた。

5人前後のグループに分かれた子どもたちは、コーチや選手をかわしながらトライを目指す試合形式の練習で、教わったばかりの礼法であいさつを行い、プレーをスタート。



あいさつの後、元気にタグラグビーを楽しむ

り、約10年前から一部の第一弾として実施。区立学校の土曜日学校12月20日には、早稲田大学ラグビー部の高橋広監督と選手(学生)の指導による区内4中学校の野球部生徒が参加した合同活動でも「マナーキッズ教室」の内容を導入した。

「おもてなしの心」を「レガシー」として広げたいという考えから本年度、公益社団法人マナーキッズプロジェクトが、法人の持つさまざまなプログラムを実施しながら各校・各本部に紹介する予定。

地方議員

- 元不登校生、夜間中学へ 1面
- 人口増の離島で分校が本校に 2面
- アプリ版ドリルを開発 2面

◎今週の読みどころ◎

民生・児童委員

- 障害者差別解消法が4月から 1面
- 保護者間トラブルに発展 4面
- 十二支から学ぶ大切な個性 6面